

編集後記

■編集委員

委員長

藤 田 郁 代

副委員長

立 石 雅 子

阿 部 晶 子

内 田 信 也

石 坂 郁 代

稲 本 陽 子

勝 木 準

菅 野 倫 子

倉 内 紀 子

倉 智 雅 子

佐 藤 睦 子

椎 名 英 貴

中 村 光 一

長谷川 賢 一

原 田 由 紀

原 田 浩 美

春 原 則 子

平 島 ユイ 子

深 浦 順 一

福 岡 達 之

藤 原 加 奈

水 田 秀 子

矢 守 麻 奈

■英文要旨の校閲

Gordon BATESON

勝 木 準

言語聴覚障害学は、健常な言語・コミュニケーション過程の科学的究明から、各種言語聴覚障害の症状・発生メカニズムの解明、評価法や治療・指導・支援法の開発等を進める学術分野です。『言語聴覚研究』は日本においてこの分野を代表する専門誌であり、日本言語聴覚士協会が2004年に創刊しました。この度、創刊20周年を迎え、記念増刊号を発行することにしました。これまでの本誌の成長を温かく見守って頂きました皆様に心から感謝申し上げます。

記念増刊号では、前会長の深浦順一先生が「日本言語聴覚士協会の活動史」と題して2000年の協会設立から現在までの活動・事業の歴史を解説されています。『『言語聴覚研究』20年の歩み』では、本誌の沿革、この20年間の論文・研究の動向、編集委員会活動の経緯や今後の展望がまとめられています。この2編の総説は1997年に「言語聴覚士法」が制定され、日本に言語聴覚士という専門職が誕生して以来の本分野の成り立ち、協会活動や研究実績を理解するうえで役立つものと思います。また研究の初心者向けに、中村光先生が「言語聴覚研究の進め方」についてわかりやすく解説されています。

今号には、創刊20周年記念企画「わが国における言語聴覚療法のエビデンス—システムティックレビューによる検討」が特集として掲載されています。これは失語症、高次脳機能障害（記憶障害）、言語発達障害、小児聴覚障害、小児構音障害、発達性吃音、Dysarthria、音声障害、摂食嚥下障害に対する日本の言語聴覚療法のエビデンスをまとめたもので、これまでに例がない画期的な特集となっています。システムティックレビューは臨床上の疑問点に対し、学術文献を系統的に検索・収集し、一定の基準で選択・評価したうえで明確で科学的な手法を用いてまとめた研究です。このように厳密で透明性が高い手順で作成されたシステムティックレビューは日常臨床において「エビデンスに基づく言語聴覚療法」を実践するときに役立つと同時に、今後「言語聴覚療法ガイドライン」を作成するうえでの貴重な資料となります。このレビュー作成には、約50名に及ぶ協会員が参加し、長い時間をかけて膨大な文献データを詳細に分析しまとめました。各障害領域のレビューは労苦多い作業に献身的に取り組まれた方々の努力の結晶であると思います。

最後に、本誌がこの増刊号の発刊を一つの節目として歩みを続け、本分野の臨床・研究の進歩に寄与することを願います。
(藤田郁代)

言語聴覚研究 20周年記念増刊号 (2025年1月31日発行)

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

会員頒布用

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会（会長：内山量史）

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京9階

☎ 03-6280-7628 FAX 03-6280-7629 <https://www.japanslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS),

Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2025, Printed in Japan

制作：(株)医学書院（代表：金原 俊） <https://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

☎ 03-3817-5600

印刷所 (株)真興社

広告取扱 (株)文京メディカル ☎ 03-3817-8036 FAX 03-3817-8044